

第3章 山梨県観光の目指す姿と課題

1. 山梨県観光の目指す姿

観光とは、平成7年（1995年）の国の審議会答申（以下「審議会答申」という。）では、「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」と定義しています。

観光の捉え方は時代とともに変化しており、平成25年（2013年）3月改定の観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」（以下「共通基準」という。）によると、「余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々の諸活動」と定義されています。

観光の目的を審議会答申では、「触れ合い、学び、遊ぶ」と列挙しているのに対し、共通基準では、「余暇、ビジネス、その他」と広く捉えており、また、観光の活動を審議会答申では、「余暇時間の中」に限定しているのに対し、共通基準では限定されておらず、観光の概念が徐々に広く捉えるようになってきていると考えることができます。

また、このような考え方は旅行者に焦点を当てていますが、観光は旅行者のみならず受け入れる側があって成り立ちます。受け入れる側についても、自ら地域の魅力や価値を知り、理解を深めることで、地域への誇りや愛着を抱き、自信をもって地域のことを伝えていくことが重要となります。

こうした考えをもとに本県では、平成23年（2011年）に観光振興条例を制定し、「旅行者がやすらぎと感動を覚え、再び訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めること」などにより観光を振興し、これによって「観光産業が県の基幹的な産業として発展することを通じて、県経済の発展及び活力に満ちた地域社会の実現に寄与する」ことを目指しています。

2. 目指す姿を実現するための課題

観光の目的や活動内容は、働き方の多様化に伴うワーケーションの登場や、アウトドア活動から発展したアドベンチャーツーリズム※など、時代によって変化しています。

「旅行者がやすらぎと感動を覚え、再び訪れたいと思う魅力ある地域」とするためには、ビッグデータ等により、旅行者の多様な観光ニーズを把握しつつ、地域の観光資源を有効に活用していくことが重要となります。特に本県は宿泊日数が少なく、滞在時間が短い傾向にあることから、より長期に滞在してもらうため、様々な活動を行うことを可能とする環境整備や仕組みづくりが必要であり、そうした情報を必要とする人に届けるための効果的な情報発信も重要となります。

また、県民のほとんどが、観光が地域を活性化することにつながると考えていますが、旅行者に対しておもてなしを意識している人の割合は、約半数にとどまっており、県民の旅行者に対する受け入れ意識の醸成が必要です。

さらに、日本における人口減少の傾向は避けることができないため、人口も経済も成長が予想されている海外に目を向け、外国人旅行者の獲得に向けた取り組みを行うことも重要です。

一方、観光を産業としてみた場合、宿泊業などにみられる労働生産性の向上は喫緊の課題であり、業務効率化と高付加価値化による収益性の向上の両輪で取り組む必要があります。

また、観光産業における人手不足も問題となっており、従業員を確保・定着させるとともに、高付加価値化に向け、より質の高いサービスを提供することができる観光人材の育成にも取り組む必要があります。

さらに、世界的に課題となっている持続可能な観光を実現するためには、地域の様々な資源の保全と利用の両立を図ることや、観光産業として地域一体となったマネジメントに取り組むなど、収益性の高いビジネスモデルを確立し、確実に次の世代に引き継ぐことが重要となります。

※ アドベンチャーツーリズムとは、「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される旅行を指します。

3. 山梨の観光のビジョン

これらの課題に取り組み、目指すべき山梨の観光の姿に近づいていくため、本計画における山梨の観光のビジョンは次のとおりとします。

「山梨のポテンシャルを100%生かし、観光の質の向上と観光産業の経営基盤の強化を図ることで、観光産業の稼ぐ力を高め、持続可能な観光地・山梨を創出する」

山梨のポテンシャルとしては、豊かな自然環境や歴史・文化等の観光資源はもちろんのこと、巨大なマーケットである東京都などに隣接しているという地域の優位性、それを生かすことができる中央自動車道や中部横断自動車道といった高速道路網、中央本線や開通が望まれるリニア中央新幹線などの鉄道網などがあり、生かすべき重要なポテンシャルと考えることができます。

また、「山梨ならではのおもてなし」は、県民と旅行者との間に、山梨の魅力や価値の共有を促し、そこに満足を超えた感動を生み出すものであり、迎える人々も重要な役割を担っていることから、おもてなしを実践していく県民も、生かすべき重要なポテンシャルということができます。

観光の質の向上のためには、旅行者の満足度向上につながる行き届いた施設やスムーズな移動、地域一体となったおもてなしなどの受入環境の整備が重要です。

また、多様化する観光ニーズに対応するため、豊かな自然環境や歴史・文化、食、イベントなどの観光資源を保全と利用のバランスを図りながら活用する「やまなしツーリズム」の推進を図っていくことが必要です。

観光産業の経営基盤の強化のためには、施設ごとの収益のみならず、地域全体の収益性まで考える観光地経営という概念を取り入れ、データに基づいたマーケティング調査が重要であるとともに、観光業に携わる従業員の処遇改善に向けた労働環境の整備や人材の確保・定着・育成や事業承継に取り組むことが重要です。

こうした観光の質の向上や観光産業の経営基盤の強化に取り組むことにより、観光産業の稼ぐ力を高め持続可能な観光地・山梨の創出を目指すこととします。